

## 食品に関するリスクコミュニケーション(意見交換会)

今回は、厚生労働省、消費者庁及び食品安全委員会が合同で開催した「牛海綿状脳症(BSE)対策の見直しに関する説明会」をご紹介します。

URL ホーム > 意見交換等 > 意見交換会、指導者育成講座及び関係団体等との懇談会の開催案内及び実績  
[http://www.fsc.go.jp/koukan/dantai\\_jisseki.html](http://www.fsc.go.jp/koukan/dantai_jisseki.html)

### 牛海綿状脳症(BSE)対策の見直しに関する説明会(東京会場・大阪会場)

2013年1月、厚生労働省、消費者庁及び内閣府食品安全委員会は合同で、牛海綿状脳症(BSE)対策の見直しに関する説明会を、東京地区(22日)及び大阪地区(24日)で開催しました。各会場では、食品安全委員会及び厚生労働省の担当者から説明を行い、その後、各会場とも約200名の参加者の方々と活発な意見交換が行われました。

食品安全委員会からは、厚生労働省から要請のあった「BSE対策の見直しに係るリスク評価」について、英国獣医学研究所で行われた牛へのBSEプリオン感染実験結果等の科学的知見等を踏まえて行った評価結果を説明しました。続いて厚生労働省からは、国内でBSE感染牛が確認されて以来行われてきた対策、このたびのリスク評価を踏まえた対応案(国内措置、輸入措置)、今後の予定等について説明しました。



東京会場

上記の説明を受けて、参加者と説明者が活発な意見交換を行いました。そこでは、プリオン、BSE等の科学的知見、このたびのリスク評価の妥当性、新たなリスク管理措置の妥当性、輸出各国でのリスク管理状況などについての意見が交わされました。説明会で使われたスライドや議事録は、上記のURLでご覧いただけます。

## 食品安全委員会セミナー(毒性学的懸念の<sup>いきち</sup>閾値)報告

2012年11月20日、「食品中微量成分のリスク評価手法の国際動向」と題したセミナーを開催しました。

URL ホーム > 意見交換等 > 意見交換会、指導者育成講座及び関係団体等との懇談会の開催案内及び実績 > 食品安全委員会セミナー - 食品中微量成分のリスク評価手法の国際動向 -  
<http://www.fsc.go.jp/fsciiis/meetingMaterial/show/kai20121120ik1>

### 諸外国における毒性学的懸念の閾値(TTC)<sup>※1</sup>の運用について活発な意見交換がなされました

食品に含まれる微量な化学物質の毒性が知られていない場合、あるいは毒性の知見が限られていたりする場合のリスク評価には、近年、TTCという概念が用いられるようになってきています。その化学物質の摂取量がTTC値より少なければ、安全上の懸念は非常に低いということの判断材料となります。食品安全委員会では、TTCの概念について関心のある方々と最新の情報・知見を共有するとともに、今後のリスク評価の充実を図る一助とするために、このたびのセミナーを企画・開催しました。

食品安全委員会の会議室(東京・赤坂)に集まった約90名を前に、まず、ミラノ大学教授で国際がん研究機関の専門家グループや欧州食品安全機関科学委員会のメンバーを務めたコラド・ロドヴィコ・ガリ博士が、リスク判定にTTCを使う理由、その歴史、そして事例研究として香料・医薬品中の不純物・化粧品・混合物・食品分析で検出された未知の物質

の事例を紹介しました。続いて、元米国食品医薬品庁幹部のミッチェル・チーズマン博士が、諸外国での食品におけるTTCの運用状況を紹介しました。

#### ※1 毒性学的懸念の閾値とは (TTC:Threshold of toxicological concern)

あらゆる化学物質について、それ以下の暴露量では明らかな有害影響が現れないとするヒト暴露の閾値のこと(日本トキシコロジー学会教育委員会編集「新版トキシコロジー」、2009年)。閾値とは、毒性評価の際、ある物質が一定量までは毒性を示さないが、その量を超えると毒性を示す値。

